



地域に笑顔が広がることを目指し 子どもたちにお菓子を届け続ける

岩手県 株式会社公楽 スマイルプロジェクト実行委員会 「笑顔の輪 お菓子寄付」事業



株式会社公楽
代表取締役
山田栄作さん

大震災後のボランティア活動を経て 「スマイルプロジェクト」を立ち上げ

2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県。岩手県を中心にパチンコ・スロット12店を展開する株式会社公楽の誕生の地、宮古市など沿岸地域は特に被害が大きかった。そこで公楽では会社を挙げて震災後のボランティア活動や炊き出しなどを行ったが、沿岸地域を含めて被害の大きい被災地では、6年が経過した現在でも、復興がなかなか進まないのが現状である。

そのため公楽は、今後も被災地のために何かできないかという思いから「スマイルプロジェクト」というプロジェクトチームを立ち上げ、議論を重ねながら、地域社会の人々が少しでも笑顔で元気になり、明日への活力となるような活動に取り組んでいる。

そのひとつが、地域の児童養護施設などにお菓子を寄贈する目的で2012年10月に始めた「スマイルプレゼント」である。これはグループの全ホールのカウンターに「スマイルBOX」という箱を設置し、そこに遊技客の協力を得て、端玉景品（お菓子）を提供してもらおうというもので、集まったお菓子をスマイルプロジェクトの実行委員会の手で袋詰めし、児童養護施設や震災に遭った子どもたちに届けている。

スマイルプレゼントの第1弾は、2012年10月31日に段ボール7箱分（約150名分）のお菓子を盛岡市内の児童養護施設に寄贈したことだった。以後もその活動は続き、昨年は



ホールに設置された「スマイルBOX」



熊本県の養護施設7カ所、避難所2カ所の計9カ所にお菓子を贈呈



お菓子はスタッフ一人ひとりがラッピングを施し、包装紙で飾った



活動の内容や報告をホール内に掲示し、遊技客へ周知を図る

1月に花巻市の清光学園、3月に矢巾町の第二新生園など、県内の6施設へ計1,651袋のお菓子を贈呈した。この活動は遊技客からも好評で、昨年1年間で約5万個以上のお菓子の提供を受けた。また、贈られる側の子どもたちや施設職員からも大いに感謝され、施設からは継続した支援を期待されている。

熊本地震で被災した子どもたちに 思いが詰まったお菓子を届ける

さらに昨年、スマイルプレゼントの輪は東北から九州へと広がった。まず4月に、大きな地震に見舞われた直後の熊本の被災者に対して、ペットボトル水（2,304本）、マウスウォッシュ（6,000個）、ウェットティッシュ（192個）、ティッシュペーパー（1,800個）、トイレトーパー（5,000個）、缶詰（1,512個）など、総額95万3,000円相当の救援物資を提供している。

それに続いて6月には、プロジェクトのメンバーが熊本を訪れ、養護施設7カ所、避難所2カ所の計9カ所（清水が丘学園、龍山学苑、慈愛園子供ホーム、菊水学園、熊本天使園、藤崎台童園、広安愛児園、広安小学校避難所、広安西小学校避難所）に段ボール45箱（約426名分）のお菓子を届けた。さらに第2弾として、8月に児童養護施設7カ所、児童自立支援施設1カ所の計8カ所（熊本天使園、龍山学苑、清水が丘学園、広安愛児園、慈愛園子供ホーム、藤崎台童園、シオン園、愛隣園）に段ボール43箱（約860名分）のお菓子を届けた。

これらのお菓子はスタッフ一人ひとりがラッピングを施し、包装紙で飾ったもので、応援の思いを伝えるとともに、現地の子どもたちの様子や震災の現状などについて話を聞くことができた。また、訪問した施設の職員からは、たくさんの温かい言葉をかけられたという。

また、同プロジェクトでは大震災以降、宮古市内でフリーマーケット、大夏祭り、秋祭りなどの復興イベントを継続して開催し、その売上金を全額復興財源として宮古市に寄付している。